

## 「光珠内季報」100号の発刊にあたって

北海道立林業試験場

場長 土川 美勝



「光珠内季報」は、昭和44年に第1号が発刊されてから、25年が経過し、ここに通巻第100号を迎えることができました。

これも、読者の皆様の支援の賜物であると感謝申し上げます。

「光珠内季報」は、現場の技術者に試験研究の成果を分かり易く提供することを目的に発刊され、今日まで、森林・林業全般にわたる技術開発や経営改善につながる成果を掲載して参りました。

近年は、林業・木材産業の停滞を乗り切るだけでなく、新たな森林文化の展開の中で、山村の活性化が求められ、その技術開発が望まれています。また、同時に、地球環境問題のクローズアップとともに、豊かなみどりに対して潤いと安らぎを求める気運の高まりなど森林に対する更なる期待が生まれており、当场としても、21世紀に向けて、林業関係者のみならず他の分野の人々や一般住民のニーズにも応えていく必要があります。

このため、当场では、森林の総合的な利用と健全な森林生態系の維持に関する技術開発を目的として、道有林内に全道5箇所、合計3万haの森林施業・生態研究林を平成6年度に開設し、実証的な試験研究を長期に亘り実施することとしております。

このような状況をふまえ、今回の「光珠内季報」100号は、「林業と環境保全の両立を目指して」を統一テーマに掲げ、最近の研究の成果と将来を展望して執筆しました。

この特集号が既刊および今後発行の本誌とともに森林・林業が抱える今日的課題解決に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、今後ともニーズに則した試験研究を進め、「光珠内季報」が皆様に役立つ情報誌となるよう努力して参りますので、一層の御支援をお願い申し上げます。